

ツシュマンスリー (2022年10月号) りそなホールディングス 市場企画部 りそな銀行 国際事業部

今月の相場見通し

※各マーケットコメントは9月30日(金)9:00現在 ※休日の実績は前営業日

				29日現在 は8月末比)		10月の予禁	見				
USD	ドル・円	(円)	1	144.46	M	140.00 ~	146.00				
030	『金融政策の方向性較差』の縮小が始まる可能性										
	ユーロ・ドル	(ドル)	N	0.982	1	0.93 ~	1.03				
EUR	ユーロ・円	(円)	1	141.81	M	135.00 ~	145.00				
	エネルギー問題や英国市場の混乱が逆風も、ECB利上げ継続で短期的に反発										
	ポンド・ドル	(ドル)		1.112	M	0.98 ~	1.18				
GBP	ポンド・円	(円)	V	160.57	A	145.00 ~	165.00				
	トラス首相の手腕に不安が高まり軟調な推移が続く										
AUD	豪ドル・円	(円)	N	93.87	M	90.50 ~	95.50				
NZD	NZドル・円	(円)	A	82.71	M	80.00 ~	84.00				
INZU	景気後退懸念の強まりで資源国通貨は軟調に										
	日経平均	(円)	V	26,422	M	24,000 ~	29,000				
株式	海外市場の影響を受け軟調推移も、相対的には底堅い										
相場	NYダウ	(ドル)	A	29,226	N	27,000 ~	32,000				
	英国市場の混乱や	や金利	上昇た	が上値を押る	きえる						
	日本	(%)	1	0.250	\Rightarrow	0.15 ~	0.25				
長期	黒田総裁在任中の	の政策	変更0	D可能性は-	一層低了						
金利	米国	(%)	1	3.786	A	3.20 ~	4.20				
	英国市場混乱の急	余波で	不安定	とな動きとな	よりやす	すい					

◆ 今月の注目ポイント

英国の混乱と日本の為替介入

テーマ	注目度	今月の注目ポイント
景気	0	【米CPI・雇用】9月FOMCで示されたドットチャートでは大幅利上げが 示唆されたが、年内残り2回の利上げに関しては1.00%か1.25%で 見方が拮抗している。11月FOMCに向けた金融政策を見極めるうえ で、今月発表される9月雇用統計・CPIは重要指標となる。
金融政策	0	【ECB・BOE】各国でインフレ抑制姿勢が鮮明となるなか、27日のECB 理事会では9月に続き0.75%の大幅利上げ実施の可能性が高まる。 また、英国ではトラス新政権の財政拡張路線によるインフレリスクが意識されるとともに、金利上昇、ポンド安が急速に進行。債券市場の混乱に対応してBOE(イングランド銀行)は緊急の債券買入を発表するが、急場凌ぎにすぎず引き続き政府・中銀当局者の発言に注意。
政治	0	【日本の為替介入】9/22にドル円145円台後半の水準で約24年ぶりに円買い介入が実施された。足元で再びドル円は介入前の145円台に接近する中、再度上昇ピッチが強まった場合には2回目の介入も意識される。当局者の発言等は引き続き注視したい。

▶ アジア通貨見通し

人民元・円	1	19.80 ~	20.50	ルピー・円	M	1.70 ~	1.80
バーツ・円		3.50 ~	3.90	ウォン・円	M	9.70 ~	10.50
ルピア・円	V	0.930 ~	0.960				

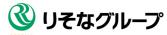
▲ 今日の重亜口程

▼ //」の主女口任		
3日 (月) 米 9月ISM製造業	14日 (金) 米 10月ミシガン大消費者信頼感指数	
4日 (火) 豪 RBA理事会	18日 (火) 中 9月生産・小売・投資	
7日 (金) 米 9月雇用統計	21日(金) 日 9月CPI	
12日 (水) 米 FOMC議事録 (9/20、2	1) 24日(月)欧 10月PMI	
13日(木) 米 9月CPI	27日 (木) 欧 ECB理事会 (結果発表)	
1/10 (全) 平 0日小吉吉 L宣	28日(全)日日组全副政策冲空企会	

◎注意事項

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、<u>弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。</u>また、こ こに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客さまご自身の判断でな されるようお願い致します。



ラ<u>ッシュマンスリー</u> (2022年10月号)

(ドル・ユーロ) 今月の相場見通し① 為替



ル

米ドル円

ドル円は下落

140.00 - 146.00 H

-110 『金融政策の方向性較差』の縮小が始まる可能性

9月のドル円相場は引き続きFRBの大幅利上げと日銀の緩和継続が材料となり、24年振りとな る140円台へ上昇した。2011年以来となる為替介入(JPY買い介入としては1998年以来)に
▶105 トローは140円付にナスファイトが、サファー より一時140円付近まで下落したが、英国初の金融市場の混乱によりリスクオフのUSD買いが進 「行したこともあり、月末には再び145円手前まで上昇した。 ▶100 理念 Landung (インフェー

理論上無制限に行えるJPY売り介入と異なり、JPY買い介入は手元の外貨準備の範囲内で行 うことができず、回数に制約があるが、その後のUSD高局面でも相対的にJPYは底堅く、一定の介 入効果は意識されていると言えるだろう。

10月下旬以降、主要国の中銀会合が短い日程に集中する中銀ウィークとなる。インフレ高進が 続くECBやBOEは引き続き大幅な利上げが予想される一方、BOCやRBAはハト派方向にスタン スを変化させる可能性があるほか、FRBも利上げ幅を75bpから50bpに縮小する余地がある。海 外中銀の中でも方向性が分かれる展開となれば、「金融政策の方向性較差」に着目したUSD高 JPY安トレンドにも転機が訪れると予想される。米10年金利4.0%、ドル円145円は長い目で見 れば歴史的な転換点となった可能性もあるだろう。

ユーロ

ユーロドル



ユーロドルは上昇

0.93-1.03ドル

ユーロ田 ユーロ円は下落 **135.00** – **145.00**円

エネルギー問題や英国市場の混乱が逆風も、ECB利上げ継続で短期的に反発

9月のユーロドル相場は中旬までパリティ (1.0) を挟んで一進一退の展開が続いたが、FRBの 大幅利上げと英国発の金融市場の混乱の煽りを受けて、0.95近くまで下落する場面があった。日 ·125 本政府が為替介入を実施したこともあり対JPYでも軟調に推移した。

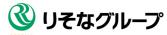
ロシアの天然ガスパイプラインであるノルドストリームが損傷したことで欧州のエネルギー不安が一 層深刻化していることに加え、隣国である英国の経済・金融市場不安も欧州経済への逆風となる。 イタリアの総選挙にて政権与党となった保守勢力が財政拡張的な政策を採れば英国同様の混乱 を招く可能性もある。対ロ制裁で足並みが乱れるリスクもあり、EUR相場は引き続き不安定な動 向となりやすい。ただし足元に限ればECBは早期の中立水準を目指して利上げを続ける公算であ る一方、他の主要中銀ではペースダウンも予想される。利上げに伴う景気減速懸念あるものの、短 期的には反発も見込めるであろう。

◎注意事項

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、<u>弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。</u>また、こ こに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客さまご自身の判断でな されるようお願い致します。





ラ<u>ッシュマンスリー</u> (2022年10月号)

(ポンド・豪ドル・NZドル) ◆ 今月の相場見通し② 為替





ポンドドル

ポンドドルは下落

0.98- 1.18ドル

ポンド円

ポンド円は下落

145.00 - 165.00 H

トラス首相の手腕に不安が高まり軟調な推移が続く

9月のGBP相場は大幅に下落した。トラス首相が発表した大型財政政策がインフレの助長や財 政懸念に繋がるとの見方から英国金利が急上昇し、英国資産全般が売られる展開となった。 BOEは予定していた国債売却計画を延期し、逆に緊急の国債買い入れを決めたことから一時金 利上昇が一服する場面もあった。ただし同措置はあくまで一時的な緊急対応であることや、減税 案自体に修正が加えられる見込みは低いことから、その後も英金利やGBP相場は不安定な推移 となっている。

英国のインフレ率は主要国の中でも最高水準であるなか、財源の裏付けの乏しい減税策はメ リット(景気刺激)よりもデメリットが意識されやすい。景気減速を厭わずにインフレ抑制に邁進す る米国の姿勢とも対象的である。英国の外貨準備は相対的に潤沢でなく、いざという場合の為替 介入原資に不安もある。当面はGBP相場は対USD、対JPYともに不安定な推移が続き、反発 には減税案の一部修正等が必要となるであろう。

ドル・NZドル



豪ドル円

豪ドル円は下落

90.50 - 95.50円

NZドル円

NZドル円は下落

80.00 - 84.00 円

景気後退懸念の強まりで資源国通貨は軟調に

うな一方的な円売りになりにくいだろう。

9月の豪ドル、NZドルは対円で下落した。月初はリスクセンチメント改善により上昇した場面も あったが、FRBの金融引き締め強化姿勢を受けたリスクセンチメント悪化により両通貨は徐々に 弱含みとなると、日銀の円買い介入により円が反転したことで、豪ドル円・NZドル円は下落に転 じた。豪中銀の「金利は正常な設定に近づきつつある」との認識やニュージーランド中銀総裁の 「引き締めサイクルは非常に成熟した段階に入っているとの見方も豪ドル、NZドルの重石となった。 10月の豪ドル、NZドルは対円で軟調に推移すると予想。主要中銀の金融引き締めの世界経 済への下押し圧力が徐々に鮮明化し、需要減懸念でコモディティ価格の下落につながりやすい。 豪ドル、NZドルにとって重石となるだろう。10月の豪中銀会合では利上げ幅が0.25%に減速す る可能性があり、豪ドルのネガティブ材料となりやすい。日銀の追加介入への警戒から今までのよ

◎注意事項

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、<u>弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。</u>また、こ こに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客さまご自身の判断でな されるようお願い致します。





ラッシュマンスリー (2022年10月号)

株式、長期金利 今月の相場見通し③



日経平均

日経平均は下落

24,000 - 29,000円

海外市場の影響を受け軟調推移も、相対的には底堅い

英国発の金融市場の混乱の影響を受け、日本株も大きく下げる場面があった。また、iPhone 増産計画の撤回を受けて関連産業の株価が下落する等、世界経済減速の影響が国内市場へ も波及し始めている。感染動向が一服し、外国人観光客の受け入れが進む等、国内経済には明 るい兆しも見えるが、グローバルな金融引き締めと景気不安が強まるなかでは日本株も上値を押さ えられるであろう。ただし引き続き、海外対比では相対的に底堅い推移を見込む。

NYダウ

ダウは下落

27,000 - 32,000ドル

英国市場の混乱や金利上昇が上値を押さえる

英国市場の混乱を受けグローバルにセンチメントが悪化しており、米国株式市場も一時乱高 下する場面があった。予想EPSの引き下げが続いており、インフレと金融引き締めに伴う業績への 影響が懸念されている。FRBの利上げ打ち止めが確認されるまでは米国の株価は上値の重い推 移が予想される。株価の持ち直しが期待できるのは年末頃となるであろう。

利見通し 長期 金



日本国債10年

➡ 金利は横ばい

0.15 - 0.25%

黒田総裁在任中の政策変更の可能性は一層低下

黒田総裁は「当面 |金融緩和の枠組みを継続すると表明し、「当面 |は「数か月ではなく2-3 年 |を指すとの発言もあった。来年4月の退任後のことは、その時のメンバーが判断することであると の発言もあったが、少なくとも黒田総裁の在任中の政策変更は一層可能性が低くなったと言える だろう。海外市場の混乱の影響は一定程度受けるものの、円金利の上昇余地は限定的。

米国債10年

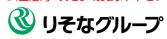
金利は低下

3.20 - 4.20%

英国市場混乱の余波で不安定な動きとなりやすい

9月のFOMCではドットチャートが大幅に引き上げられると同時に、来年の利下げは見込んでい ないことが改めて示された。9月は英国での減税政策を巡る混乱から米金利も大きく上昇する場 面があった。BOEの緊急対応により現在は鎮静化に向かっているが、引き続き主要国の利上げや B/S縮小が進捗するなかで、債券市場は不安定な動きとなりやすい。 今月はFOMCの開催はな く、物価関連をはじめとした経済指標への注目度が高まるだろう。

◎注意事項



<u>りそな マーケットフラッシュマンスリー</u> <u>&アジア・新興国FXフラッシュ</u> (2022年10月号)

◆ 今月の相場見通し④ 新興国通貨(アジア)

		9/29	9	月の相場推移		10月の予想	解説
中	人民元/円	20.34		19.87~20.76	Ø	19.80~20.50	不動産市況の低迷や米国との金融政策格差から9月のドル人民元は上昇し、 過去最安値を更新した。貿易黒字の鈍化がネガティブ材料となるが、持ち直しつ つある景気状況やPBOCの元安抑制姿勢(カウンターシクリカル要素の導入
玉	ドル/人民元	7.098		6.889~7.267	Ø	7.00~7.25	等)や介入可能性は人民元の支えとなる。今までのドル高は過熱感から一部 巻き戻しが入りやすく、ドル人民元の下落要素にもなる。
タ	バーツ/円	3.812		3.773~3.959	Ø	3.50~3.90	ドルバーツ相場はFRB金融引き締めや市場の混乱を受けたドル高により売られる 展開が続き、足元では約16年ぶりの1ドル38バーツ台に上昇。こうした中でタイ 中銀は9/28に前回に続いて0.25%の利上げを行ったが、回復途上のタイ経済
イ	ドル/バーツ	38.09		36.04~38.45	Ø	36.5~39.5	にも配慮しタカ派姿勢は限定的となっている。本格的な相場反転材料には乏しいが、一時的な反発はあるとみてバーツは対ドル上昇(対円下落)を予想する。
インド	100兆°7/円	0.946		0.935~0.976	Ø	0.93~0.96	インドネシア中銀は9月の会合で予想を上回る利上げ幅を決定したものの、FRB による金融引き締め強化姿勢や株安を背景としたリスク回避の動きからドル買い進み、9月のドルルピアを押し上げた。10月のドルルピアは急騰の反動から下落し
ネシア	ドル/ルピア	15,263		14,818~ 15,278	Ø	15,150~ 15,350	やすいとみる。また、インドネシア中銀高官がルピアの過度の下落を防ぐため、介入する姿勢を示したのはルピアのポジティブ材料となるだろう。
て	ルピー/円	1.764		1.736~1.828	Ø	1.70~1.80	ドル高地合いで貿易収支の継続的な悪化や株安に伴う資金流出がルピー安に つながり、ドルルピーは過去最高値を更新。一方、景気懸念による原油などコモ ディティ価格の下落は貿易収支改善につながることで今月はルピーが買い戻され
ド	ドル/ルピー	81.85		79.03~81.95	Ø	81.00~82.50	ると予想。直近のCPIが市場予想を上回ったことから、インド中銀は一層インフレ抑制姿勢を強めるとみられることもルピーの支援材料となるだろう。
韓	100ウォン/円	10.035	Ø	9.95~10.55	Ø	9.70~10.50	9月のウォン相場は新興国通貨でも特に弱い値動きとなり月間では対ドルで約7%下落、約13年ぶりに1,400ウォン台の水準に乗せた。韓国中銀はウォン安けん制姿勢を強めるものの、グローバル景気への懸念や先進国の急速な利上げ実
国	ドル/ウォン	1,439		1,342~1,442	SI	1,380~1,500	施を受けたドル高地合いの中でウォン安は止まらず。ウォン安の根本要因は残る ものの、今月はリスク後退で一時的には買い戻しも入り対ドルでは上昇を予想。

◎注意事項



<u>ラッシュマンスリー</u> 国FXフラッシュ

新興国通貨チャート















<u>りそな マーケットフラッシュマンスリー</u> <u>&アジア・新興国FXフラッシュ</u> (2022年10月号)

年間為替見通し

		2022年		2023年		ポイント		
		10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	ポインド		
ドル円	レンジ	125~155	115~145	115~135	115~135	FRBは年内に利上げを停止。年明け以降は日銀の政		
כועליו	期末値	135	130	129	128	策変更も意識され徐々に下落。		
1-0	レンジ	0.90~1.10	0.95~1.15	0.95~1.15	0.95~1.15	ECBがプラス金利へ向けた利上げを進めるなか、		
ドル	期末値	1.00	1.05	1.05	1.05	FRBは利上げペース減速を見込む。金融政策較差に		
1-0	レンジ	125~155	120~150	120~140	120~140	よりEURに上昇余地。一方、来年以降は米国とともに景気減速が鮮明となり上値を押さえられる。		
円	期末値	135	137	135	134			
ポンド	レンジ	0.90~1.20	0.95~1.25	1.05~1.25	1.05~1.25			
ドル	期末値	1.05	1.10	1.15	1.15	トラス首相の減税案がインフレ助長と財政不安を招き、GBP		
ポンド	レンジ	140~165	140~160	135~155	135~155	は当面不安定な動き。BOEの対応と減税案修正があれば 反発も見込まれるが、当面は下値不安が大きい。		
円	期末値	142	143	148	147			
ドル	レンジ	7.00~7.40	6.80~7.20	6.60~7.00	6.50~6.80	コロナ担制による中国の奴突ばは原今やDDOCの領		
人民元	期末値	7.10	6.90	6.70	6.60	コロナ規制による中国の経済減速懸念やPBOCの緩 和的な姿勢からドル人民元上昇。来年初からコロナ		
人民元	レンジ	17.0~20.0	16.0~19.0	16.5~19.5	16.5~19.5	対策の修正による中国経済の回復やドル高一服でドル人民元は下落に転じる。		
円	期末値	19.1	18.8	19.3	19.4	707(10)116 711(440 0)		
豪ドル	レンジ	86.0~96.0	83.0~93.0	80.0~90.0	80.0~90.0	豪州中銀の利上げペースの減速や世界景気減速懸念		
円	期末値	87	85	86	85	の強まりで豪ドル円は徐々に下落へ		
タイバー	レンジ	3.35~3.90	3.25~3.70	3.15~3.60	3.10~3.60	ドル高地合いで経常収支悪化からのバーツは年内売		
ツ円	期末値	3.45	3.40	3.35	3.30	られやすい一方、円に買い戻し入りバーツ円は下落		

◎注意事項





<u>りそな マーケットフラッシュマンスリー</u> <u>&アジア・新興国FXフラッシュ</u> (2022年10月号)

マーケットカレンダー

	日本	米国	その他
10/3(月)		9月ISM製造業景況指数	
10/4(火)	10年債入札	8月製造業受注	(豪) 準備銀行理事会
10/5(水)		8月貿易収支	
		9月ADP雇用統計	
		9月ISM非製造業景況指数	
10/6(木)			
10/7(金)	8月家計調査	9月雇用統計	
	8月毎月勤労統計(速報)		
10/10(月)	(スポーツの日)	(コロンプス記念日)	
10/11(火)	9月景気ウォッチャー調査	3年債入札	
10/12(水)	30年債入札	10年債入札	
	8月機械受注	9月PPI	
		FOMC議事要旨	
10/13(木)	9月企業物価指数	30年債入札	(中)9月貿易統計
		9月CPI	
10/14(金)	5年債入礼	9月小売売上高	(中) 9月CPI



	日本	米国	その他
10/17(月)		10月NY連銀製造業景気指数	
10/18(火)	20年債入札		(中) 7-9月期GDP
			(中)9月生産・小売・投資
			(独)10月ZEW景気指数
10/19(水)		20年債入札	
		9月住宅着工・許可件数	
		米地区連銀経済報告	
10/20(*)	9月貿易統計	10月フィラデルフィア連銀製造	
10/20(%)	373 A 30400	業景気指数	
		9月中古住宅販売	
10/21(金)	9月消費者物価指数		
10/24(月)			(欧)10月PMI(速報値)
10/25(火)		10月消費者信頼感指数	(独)10月IFO企業景況感指表
		2年債入札	
10/26(水)		5年債入札	
	2年債入札	9月新築住宅販売	
10/27(木)		7-9月期GDP(速報値)	(欧) ECB定例理事会
		7年債入札	
10/28(金)	9月労働力調査	9月個人所得・消費支出	
	黑田日銀総裁定例会見		
	日銀金融政策決定会合(結果発表)		
10/31(月)	9月鉱工業生産		(中) 10月PMI
	9月住宅着工件数		



中国の動向-主要トピックス①

りそな銀行上海駐在員事務所

$[8/26\sim 9/1]$

◎米企業「中国防疫措置が打撃に」

中国事業を展開する米国企業で構成する団体、米中ビジネス協議会 (USCBC)は新型コロナの防疫措置が中国事業に与えた影響に関する設 問に対して、会員企業117社を対象に調査を実施し、29日調査結果を 発表した。「重大なマイナス」、「マイナスな影響を与えた」は合計 96%を占め、新型コロナウイルス対策が中国事業に大きな打撃になっ たことが明らかになった。また防疫措置が企業運営や市民の消費意欲に マイナスな影響を与え、今後の投資計画の中止、延期にもつながってい る。

(96)20 15 10 2022年政府日標:5.5% -10

中国におけるGDP増加率の推移

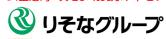
$[9/2\sim 9/8]$

◎中国8月の輸出額が前年同月比7.1%増

中国税関総署が7日、2022年8月の貿易統計を発表した。その内、輸 出額は前年同月比7.1%増の3,149億2,050万ドルだった。伸び幅は前 月から10.9ポイント鈍化し、前年比ではマイナスとなった。品目別に 見ると、主力の電機、機械製品は前年同期比9.1%増の1兆3,428億 7,220万ドルだった。伸び幅は1~7月から鈍化した。また国地域別で は1~8月の輸出額は全ての主要地域がプラスを維持した。1~8月の日 中貿易では日本への輸出が1,142億8,080万ドル(6.6%増)、日本か らの輸入は1,247億460万米ドル(7.5%減)だった。



◎注意事項



りそな マーケットフラッシュマンスリー (2022年10月号)

中国の動向-主要トピックス②

りそな銀行上海駐在員事務所

$[9/9 \sim 9/15]$ ◎中国8月のCPI 2.5%上昇

中国国家統計局が9日、2022年8月の消費者物価指数(CPI)を 発表し、前年同月比2.5%上昇した。一部食品の値下がりなどで、 伸び率は約2年ぶりの大きさだった前月(2.7%)から鈍化した。3 カ月ぶりに伸びが鈍った。CPIを構成する8項目は全て上昇、その 内交通、通信(4.9%)、食品、たばこ、酒(4.5%)の上昇率で 、地域別では都市部が2.4%、農村部は2.7%上がった。1〜8月の CPIは前年同期比1.9% ト昇した。

$[9/16\sim 9/22]$

◎中国8月の経済好調を取り戻す

中国国家統計局は15日、2022年8月の主要経済指標を発表した 。8月は7月の低調を覆し、好調を呈した。主に小売売上高と鉱工 業生産額とともに前年同月比の伸び幅が前月から拡大。また固定 資産投資も前年同期比5.8%増の36兆7,106億元となり、今年初の 拡大となった。自動車購入促進策やインフラ投資促進策等の政策 が効果を発揮した。一方、不動産業は低迷期が継続、不動産販売 は引き続き大幅なマイナスを記録した。

主要経済指標

<月次データ>

項目	単位	2021/10	2021/11	2021/12	2022/1	2022/2	2022/3	2022/4	2022/5	2022/6	2022/7	2022/8
実質GDP成長率	%	-	-	4.0	-	-	4.8	-	-	0.4	-	-
消費者物価上昇率	%	1.5	2.3	1.5	0.9	0.9	1.5	2.1	2.1	2.5	2.7	2.5
都市部調査失業率	%	4.9	5.0	5.1	5.3	5.5	5.8	6.1	5.9	5.5	5.4	5.3
輸出額	10億ドル	299.6	324.8	340.2	326.7	217.0	275.3	272.7	306.6	330.0	332.7	314.9
輸入額	10億ドル	214.8	253.1	246.5	244.1	189.1	230.4	222.9	229.1	232.8	231.4	235.5
経常収支	100万ドル	-	-	317,301	-	-	88,875	-	-	169,075	-	-
外貨準備高	10億ドル	3,217.6	3,222.4	3,250.2	3,221.6	3,213.8	3,188.0	3,119.7	3,127.8	3,071.3	3,104.1	3,054.9
主要政策金利	%	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35
対ドル為替レート	人民元	6.41	6.39	6.37	6.36	6.34	6.35	6.44	6.71	6.70	6.73	6.80

※ 対ドル為替レート: 期末又は月末値 主要政策金利:1年物貸出基準金利 出所: Bloomberg





"上海下午茶"(上海からティータイム)

りそな銀行上海駐在員事務所

○ 唐の時代はもう刺身を食べていたの?

最近「鮮牛史」というドキュメンタリーにはまりました。内容は 中国古代有名な文化人:魯迅、蘇東坡、曹雪芹、白居易四人が好 きな料理をテーマに、歴史とそれぞれの生い立ちを含めて紹介す るものです。料理の由来から作り方また文人の気持ちなども含め、 時には大家自ら方言で美食に対するコメントもあり、面白くて、 すっかりはまってしまいました。

その中で白居易の好きな食べ物を紹介すると「魚」で、もっと具 体的に言うと「さしみ」です。唐の時代はすでに刺身を食べてい たことを初めて知りました。また番組を見ると、実は周の時代か ら刺身を食べる習慣があり、祖先の祭りにも使い、更に刺身を意 味する「餘」いう漢字も作りました。

当時の人々はどれぐらい刺身が好きなのかわかるでしょう。



刺身のたれと言うと、白居易が好きな のは芥子菜の種からすりおろしたたれ で、わさびとは違いますが、その辛さ は変わりません。やはり食べ物は国境 がありませんね。

○物事には「適度」が必要

週末、なんだかバルコニーでは臭い匂いがします。原因を探ると、 ある植物から匂いがしています。私がずっと大切にしていた君子蘭 です。

根のところが既に腐って、葉っぱがまだ緑なので、ずっと気が付い ていなかったのです。どうして、ずっと大切にしていたのに、枯れ たのでしょうか。ロックダウン時に、77日間も世話をしなくても (私はロックダウン時別の家に住んでいました)、よく生きていた のに、なぜ最近急に枯れてしまったのでしょうか。

よく考えれば、8月は猛暑が続き、晴れる日が多かったので、

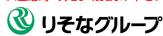
君子蘭も大量の水が必要と思い、水やりの回数が前より増えました。

君子蘭の根は大量の水に浸かって、腐ってしまったようです。

私の過度な愛情で、君子蘭を死なせてしまいました。

よく考えれば、子育ても植物を植えるのも同じで す。私にとっては、相手のためにいろいろやった のですが、相手はもう限界だったかもしれないで す。やはり、物事には「適度」が必要ですね。 今後の子育てでも注意します。





ラ<u>ッシュマンスリー</u> (2022年10月号)

タイの景気動向

りそな銀行バンコック駐在員事務所

- ◆タイ中央銀行が発表した2022年7月の経済報告によれば、国内経済が緩やかに回復して いるとの認識を示した。民間消費指数は前年同月比14.7%上昇した。観光業の回復基調に も合わせて、サービス部門の回復が鮮明になっている。民間投資指数は同5.7%上昇した。 建設投資は増加傾向が続いているが、機械・設備投資を中心とした資本財の輸入は下落し た。鉱工業生産指数は同6.4%となった。輸出向け製造業、特に繊維・衣料品、エアコン・ 同部品等は堅調だったものの、鉄鋼、プラスチックペレット、ハードディスク駆動装置 (HDD)は減産した。
- ◆夕イ商務省によると、2022年7月の輸出額は前年同月比4.3%増の236億2,930万米ドル と、17カ月連続で前年同月を上回った。2022年1~7月の輸出額は前年同期比11.5%増の 1,728億1,400万米ドルだった。増加の要因としては、ウクライナ危機を背景にタイの農産 物や食品加工製品の需要拡大が続いていること、コンテナ不足の緩和等が挙げられた。農 産物・加工品の輸出は前年同月比14.6%増、主要工業製品は同0.1%とほぼ横ばいだった。

増加した工業製品はピックアップトラック・バス・トラック(22.9%増)、機械・部品 (5.4%増)、電気製品(5.0%増)等。一方、減少した工業製品はゴム手袋(49.8%減) バイク(14.8%減)、乗用車(11.3%減)等で、要因としては半導体不足によるものが大 きい。国別では、米国向けの輸出額が3,742億米ドルと最大であり、前年同月比4.7%増加 した。その他、欧州連合(同8.1%増)、東南アジア諸国連合(同22.6%増)、南アジア (同21.1%増)も増加した。一方、中国(同20.6%減)、日本(同4.7%減)、香港(同 31.3%減)、ロシア(同39.7%減)はそれぞれ減少した。7月の輸入額は同23.9%増の 272億8,980万米ドルで、貿易収支は36億6,050万米ドルの赤字となった。7月の対米ド ル・バーツ相場は平均で1米ドル=36.36バーツで、前月の34.97バーツからバーツ安と なった。

主要経済指標

<月次データ>

主要政策金利:タイ翌日物レポ金利

項目	単位	2021/10	2021/11	2021/12	2022/1	2022/2	2022/3	2022/4	2022/5	2022/6	2022/7	2022/8
実質GDP成長率	%	-	-	1.8	-	-	2.3	-	-	2.5	-	-
消費者物価上昇率	%	2.4	2.7	2.2	3.2	5.3	5.7	4.7	7.1	7.7	7.6	7.9
失業率	%	2.3	2.3	1.6	1.6	1.6	1.5	1.5	1.5	1.4	1.4	_
輸出額	100万ドル	22,776	23,723	25,419	21,259	23,483	28,860	23,521	25,509	26,553	23,629	-
輸入額	100万ドル	22,842	22,401	25,840	23,785	23,360	27,401	25,430	27,383	28,082	27,290	-
経常収支	100万ドル	-478	380	-1,562	-2,541	-568	920	-3,057	-3,716	-1,873	-4,068	-
外貨準備高	10億ドル	246.1	243.0	246.0	242.8	245.1	242.4	228.6	230.0	222.3	220.0	215.0
主要政策金利	%	0.50	0.50	0.50	0.50	0.50	0.50	0.50	0.50	0.50	0.50	0.75
対ドル為替レート	バーツ	33.5	33.1	33.6	33.2	32.7	33.3	33.8	34.4	35.0	36.4	35.9

◎注意事項

※ 対ドル為替レート: 期末又は月末値

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

出所: Bloomberg



ラッシュマンスリー (2022年10月号)

タイにおける自動車産業の動向

りそな銀行バンコック駐在員事務所

							出所:	タイ工業連盟(FTI)
			2019年	2020年	2021年	2022年	前年同期比	7月
						(1-7月)	(%)	
【台数】		(台)						
四輪	生産台数	乗用車	804,340	542,437	599,844	302,100	88.2	45,168
		商用車	1,209,370	884,533	1,085,861	710,967	113.7	97,790
		合計	2,013,710	1,426,970	1,685,705	1,013,067	104.7	142,958
	国内販売台数	乗用車	398,386	274,789	251,800	155,087	113.2	19,194
		商用車	609,166	517,357	507,319	336,242	116.5	44,839
		合計	1,007,552	792,146	759,119	491,329	115.4	64,033
	輸出台数	•	1,054,103	735,842	959,194	532,730	97.9	83,086
二輪	生産台数		1,948,480	1,615,319	1,780,654	1,087,625	99.9	153,170
	国内販売台数		1,718,587	1,516,096	1,606,481	1,040,440	105.3	133,815
	輸出台数		948,839	727,152	965,967	582,056	101.4	80,603
【完成車輸	出金額】(百	百万パーツ)						
四輪			545,968	410,912	561,147	318,641	101.4	51,987
二輪			69,933	85,802	75,985	38,371	79.8	4,386

	四輪車輸出・国内販売台数の推移 (単位:台)
2022年(1-7)	生產台数1,013,067台
2021	年 251,800 507,319 959,194 生產台数1.885,705台
2020	年 274.78 517.357 735,842 生產台数 1.426,970合
2019	年 398,386 609,166 1,054,103 生産台数 2,013,710
	0 500,000 1,000,000 1,500,000 2,000,000 2,500,000
	■国内販売台数(乗用車) □国内販売台数(商用車) ■輸出台数

【メーカー別国内販売台数】										出所:トヨタ自動車	
		2019年	シェア (%)	2020年	シェア (%)	2021年	シェア (%)	2022年 (1-7月)	前年同期比 (%)	シェア (%)	7月
トヨタ	栗用車	117,708	29.5	68,152	24.8	62,403	24.8	43,990	128.7	28.4	5,096
	商用率	214,672	35.2	176,164	34.1	177,320	35.0	118,319	118.3	35.2	15,181
	合計	332,380	33.0	244,316	30.8	239,723	31.6	162,309	120.9	33.0	20,277
いすゞ	乗用車	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0.0	0
	商用率	168,215	27.6	181,194	35.0	184,160	36.3	126,171	118.1	37.5	16,282
	合計	168,215	16.7	181,194	22.9	184,160	24.3	126,171	118.1	25.7	16,282
ホンダ	乗用車	96,154	24.1	77,419	28.2	76,886	30.5	34,209	80.2	22.1	4,635
	商用率	29,679	4.9	15,622	3.0	11,806	2.3	13,208	188.1	3.9	2,621
	合計	125,833	12.5	93,041	11.7	88,692	11.7	47,417	95.5	9.7	7,256
日産	乗用車	35,809	9.0	27,120	9.9	19,790	7.9	7,923	63.2	5.1	1,111
	商用率	28,605	4.7	17,438	3.4	9,906	2.0	6,184	118.2	1.8	1,229
	合計	64,414	6.4	44,558	5.6	29,696	3.9	14,107	79.4	2.9	2,340
三菱	乗用車	38,879	9.8	22,363	8.1	18,456	7.3	12,970	127.6	8.4	1,788
	商用率	49,365	8.1	35,046	6.8	28,732	5.7	18,455	111.4	5.5	2,163
	合計	88,244	8.8	57,409	7.2	47,188	6.2	31,425	117.6	6.4	3,951
その他	乗用車	109,836	27.6	79,735	29.0	74,265	29.5	55,995	149.3	36.0	6,564
	商用率	118,630	19.5	91,893	17.7	95,395	18.7	53,905	101.8	16.1	7,363
	合計	228,466	22.7	171,628	21.8	169,660	22.3	109,900	121.5	22.3	13,927
合計	乗用車	398,386	100.0	274,789	100.0	251,800	100.0	155,087	113.2	100.0	19,194
	商用率	609,166	100.0	517,357	100.0	507,319	100.0	336,242	116.5	100.0	44,839
	合計	1,007,552	100.0	792,146	100.0	759,119	100.0	491,329	115.4	100.0	64,033

